



川面彩る。心に染みる。  
リバーサイドで夏夜見上げて…

Mizutomo

第3回 ともしび  
水と灯火の夕べ

8月30日 土曜日 魅せる800発

19:00 ~ 開会 / 19:10 ~ 盆踊り / 20:10 ~ 灯ろう流し

打ち上げ花火 20:30 ~ 20:50

彦山川・中元寺川合流点河川敷

雨天時は翌日に順延 福智町役場総務課庶務係 22-0555



「初心不可忘」(初心忘るべからず)。旧赤池町の教育長時代に、町内の書家の方からいただいた言葉である。ともすれば、はじめの

気持ち忘れがちになることを戒めてくれる、私にとって大変重みのある言葉であり、今では、町長室の壁に掛けられた額縁の中から、じつと私の言動を見守っている。この箴言は、室町時代の能の大成者である世阿弥が著した「風姿花伝」の中に書かれていて、三段階の「初心忘るべからず」からなっている。つまり、是非の初心忘るべからず、時々の初心忘るべからず、老後の初心忘るべからず、である。「是非の初心」とは、能楽を習いたいと発心した時の、最初の初々しい気持ちを指し、「時々の初心」は、芸が身について、それなりの実績をあげた時の戒めを表す初心だそう。また、円熟の域に達した人が、更なる芸の磨き方を探す境地のことを、「老後の初心」としている。誰でも、ある程度の経験と時間をかければ、上達することは確かだが、そこで自己満足してしまい、もっと上の高みを目指す向上心を放棄するケースは、枚挙にいとまがない。世に名を成す人達は、三段階の初心を忘れずに、自分自身を磨き続けた人であり、続けている人であるに違いない。いずれにしても、物事を始めようとした時の気持ちを維持し、努力と工夫を重ねていくことの大切さを教えてくれる言葉が、「初心不可忘」だと理解している。終生肝に銘じて、自己叱咤(しつた)したい。

浦田 弘二